

# 業

つな  
を繋ぐ



認定農業者  
武藤園芸

武藤 政仁さん 政寛さん(橋本)

A man wearing a white short-sleeved shirt and a blue cap with a colorful band is working in a field. He is looking up and to the right, reaching towards a plant with green leaves and small white flowers. The background is a dense field of similar green plants under bright sunlight.

# 農

を始める

認定新規就農者

茜農園

坂浦 穰さん(戸沢)

## 一本の茎から枝分かれして たくさんのお花をつける洋菊

### 「スプレーマム」

父・政仁さんは20代で就農。その頃の武藤家では、野菜を中心にしながら、露地で花を育てていました。

本格的に花に挑戦したのは、20代後半。当時、日本に入ってきたばかりの「スプレーマム」に挑戦しました。

取り寄せて作ってみたものの、市場にはなかなか受け入れられませんでした。

偶然目にした雑誌で、すでに愛知県がスプレーマムの産地となっていることを知って、夜行列車に乗り、アポイントもとらず、愛知県に向かいました。そこで、栽培方法を学び、秋にしか出荷できなかったスプレーマムを8月のお盆の時期に出荷。市場の社長にも応援してもらい、全て買い取ってもらったそうです。



きれいな花を咲かせる  
洋菊(マム)

その後、数名の仲間と共に

種苗会社と産地として契約を結び、花づくりに励みました。

数年後には、特に夏場、涼しい東北の気候で栽培したスプレーマムの産地として、二本松は評価を受けるようになりました。

### 「継いだ方がよいよ」

政寛さんは、高校生の時に、学校の研修で、父・政仁さんが経営する武藤園芸に来る機会があり、先生から「こんなにすごい農家だったら継いだ方がよいよ」と言われたことで、農家を継ぐことを強く意識したそうです。

大学を卒業後、会社員として花に関わる仕事をしていましたが、5年程前に親元で就農。今では、マムに関して生産から販売までを任されています。

昔と比べて農業をする人は減っていて、若い農業者も少なくなっていますが、その中でも同じ若手農業者の仲間と一緒に研修をしたり、勉強会を開いたりして交流を深めながら、活動をしています。

### 親元での就農

農業を新規に始めようとする、補助金はあるものの、土地・機械・ハウスのほか、手続きも多岐にわたり、どうしてもハードルが高くなってしまう。親元で就農することで、環境・基盤が整っていることは、大きなメリットになります。

就農について考える際には、「経営が成り立つかどうか、農業のお金の流れがどのようになっているかを確認して、また、経営者として、どのように経営していくかも含めて考えるとよいと思います。」と話してくれました。



出荷の準備をする政寛さん

### 人とのつながりがあって、人の信用があれば成り立つ

政仁さんは、個人経営であることで、フットワークが軽く、それが良い方向に向かうことがあると話してくれました。



花の苗を取る政仁さん

「直接、消費者の声を聞いて、消費者の求めるものを考えて、相手のニーズに合うものを考えています。作ったものに對して相手の声を聞くことが一番大事。いかに人のつながりを大事にするかが大切だと思います。」

インターネットのほかに、形態での販売が伸びてくるかもしれません。今の時代は、作ったものを「どうやって消費者に届けるか」考える必要があります。

### 好きなことが「いちばん」

政仁さんは、「好きでやっていくのは一番良くて、お金の計算も大事だけど、人に喜んでもらえることがモチベーション。花がきれいと言ってもらえることがモチベーションです。」と話してくれました。



武藤園芸  
むとう まさひと  
武藤 政仁 さん

20代で家業の農業に就農。スプレーマムの第一人者として活躍。昨年、奥様・美枝子さんとともに福島県農業賞を受賞。オープンガーデン「ムトーフラワーパーク」も運営。認定農業者。



武藤園芸  
むとう まさひろ  
武藤 政寛 さん

学生の頃から農業に触れ、大学でも農業を学ぶ。花に携わる会社に勤務した後、5年前に親元で就農。若手農業者の集まり「ファーマーズコミュニティ“note”」会長。



見頃は4～5月頃  
(二本松市橋本405)

武藤さんが手入れするオープンガーデン  
ムトーフラワーパーク  
桜やシャクナゲなどの花々が見事に咲き誇ります。

## 究極のクリエイティブ

「農業は、究極のクリエイティブ」と表現してくれました。種から育て、実がなりまします。それがお金にもなり、自分で食すこともできます。

坂浦さんは、20数年間、警視庁に勤務。幅広い業務に携わり、東日本大震災からの復興にも力を注ぎました。警察官としてやりがいを感じつつも、「定年後も続くような新しいことにチャレンジしてみたい」と思うようになったそうです。

福島を選んだ理由を尋ねると、「季節ごとに美しい自然があつて、どうせやるなら、福島で農業をやってみたいと思いました。」と答えてくれました。



自分で建てた農作業用の小屋とリンゴ畑



昨年出荷したリンゴ

## リンゴの農家として

今は、リンゴ農家として独立し、就農後に苗木も植え、収量も増えています。

本人曰く、「果樹は気が長い作物で、じっくり向き合えるので、自分の性に合っている」とのこと。「1年を通じての作業工程は膨大ですが、前年の失敗や成功の体験をもとにして工夫を凝らし、次の年に良い成果が出た時には、農業の醍醐味を味わうことができます」と話してくれます。

主な品種は、蜜入りの「フジ」や「秋茜」。特に秋茜は、消費者の方々からの反響が大きいそう。苗農園としてインターネットでも販売しています。

## これから農業を始める人へ

農業には定年がありません。人にとって仕事があるということは、すごく幸せなこと。自分の行った結果が自分で分かるし、責任もあります。今は、スマート農業も発達していて、「自分自身でクリエイティブなことをしてみたい」と考える若い人にとって、農業は大きなチャンスだと思います。



美しく咲くリンゴの花

就農前は、東京の警視庁に勤務。東日本大震災後の平成25年には、ウルトラ警察隊の一員として福島県警に転出。人命の捜索に当たった。平成30年に移住し、研修を経て令和2年に農家として独立。認定新規就農者。



苗農園 坂浦 穂 さん

## 農業を始める

1 ステップ①  
相談窓口へ行ってみよう！

2 ステップ②  
体験に参加。情報収集をしてみよう！

3 ステップ③  
農業に必要な技術や知識を身につけよう！

農家等で実践的に学びたい時は、新規就農者の受け入れを行っている団体で**学ぶ**のも1つの方法です。

・NPO法人ゆづきの里東和ふるさとづくり協議会(太田)

☎(46) 2116

・株式会社二本松農園(新生町)

☎(24) 1001

・オーガニックふくしま安達(戸沢)

☎(46) 2132(代表幹事関元弘宅)

・ふくしま未来農業協同組合安達地区やさい部

☎(33) 2739(JA安達地区本部農業振興課内)

※二本松市では、**新規就農**の場合、指導する団体に対し、技術習得期間(1年間)中の指導に必要な経費、事務費および市外研修者の家賃、生活費の一部を補助金として交付しています。その他の助成など詳しくは左記までお問い合わせください。

・家賃補助 ……2万5千円/月

・生活費補助 ……7万円/月

・技術指導補助…3万円/月

・事務経費補助…5万円/年

※家賃補助および生活費補助は、市外からの転入者で18〜50歳までの研修者に限ります。

◎問い合わせ・相談窓口…

農業振興課農政係

☎(55) 5116

Fax(22) 8533

